

日本植物病理学会報 第73巻

目次

会長講演

植物病理学と学会の使命…………… 眞山滋志……………135

学会受賞者講演

各種園芸作物病害の診断と生態、および防除に関する研究…………… 堀江博道……………138

弱毒ウイルスに関する基礎研究…………… 西口正通……………141

イネ・いもち病菌の相互認識に関する研究…………… 寺岡 徹……………144

学術奨励賞受賞者研究要旨

カブモザイクウイルスの病原性解析と簡易検出法の開発…………… 石川（末廣）典子……………146

タンゼリン brown spot 病菌の宿主特異的 ACT 毒素生成遺伝子に関する研究…………… 増中 章……………147

植物内生放線菌を用いた耐病性組織培養苗の作出…………… 清水将文……………148

原 著

スクラッチ法によるカンキツグリーンング病の迅速簡易診断

…………… 澤岷哲也・豊里哲也・河野伸二・田場 聡・
田場奏美・大城 篤・沼澤雅哉・渡慶次美歌…………… 3

愛媛県におけるカンキツ幹腐病の発生と PCR による本病原菌の検出…………… 三好孝典・小野泰典・清水伸一…………… 9

病害抵抗性誘導物質の前処理により増強される各種エリシター応答発光の特性

…………… 影山智津子・加藤公彦・稲垣栄洋・伊代住浩幸・古瀬勝美・馬場康司…………… 15

種特異的プライマーを用いた PCR による花き生産環境からの *Pythium helicoides* の検出

…………… 銀 玲・景山幸二・浅野貴博・千田昌子・渡辺秀樹・須賀晴久・福井博一…………… 86

酵母抽出液（アグリボ EX）処理による PR 遺伝子群発現誘導機構の解析

…………… 小原直美・光原一朗・瀬尾茂美・大橋祐子・長谷川守文・松浦雄介…………… 94

オーニソガラムモザイクウイルスによるオーニソガラムモザイク病の発生と宿主範囲を異にする分離株の存在

…………… 松本 勤・山本英樹・高橋春實・神田啓臣・勝田茂満・相馬玲子・藤 晋一・井上正保……………102

西日本におけるムギ類赤かび病菌 *Fusarium graminearum* 種複合体のかび毒産生能と病原力…………… 中島 隆・吉田めぐみ……………106

濡れたカンキツ樹へのマンゼブ水和剤散布がマンゼブ付着量およびカンキツ黒点病の防除効果に及ぼす影響

…………… 三好孝典・川幡 寛・清水伸一……………149

選択培地によるベノミル剤耐性イチゴ炭疽病菌 *Glomerella cingulata* の潜在感染株及び育苗培養土からの検出

…………… 岡山健夫・平山喜彦・西崎仁博……………155

Eremothecium coryli によるダイズ子実汚斑病（新称）…………… 木村重光……………283

スピードスプレヤーの走行法の違いがナシ黒星病および炭疽病に対する防除効果と葉の葉液付着に及ぼす影響

…………… 井手洋一・田代暢哉……………289

化成肥料を施用した不耕起・無代掻き水田でのイネ紋枯病の発生動態…………… 本林 隆・嶋谷幸彦……………295

短 報

カラシナ、ミズナ、コマツナ、レタスに同時発生した *Rhizoctonia solani* Kühn AG-1 IC による苗立枯れ症状

…………… 瓦谷光男・中曾根渡・岡田清嗣・田中 寛・西濱絢子…………… 21

スクロース合成酵素遺伝子を内部コントロールに用いたカンキツグリーンング病の高精度 PCR 診断法

…………… 浦崎直也・上原 司・河野伸二…………… 25

チオファネートメチル耐性コムギ赤かび病菌 *Fusarium culmorum* の検出…………… 岩間俊太・勝部和則・石井英夫……………162

担子菌系酵母様菌 *Meira geulakonigii* および *Pseudozyma aphidis* によるナシ汚果病（病原追加）

…………… 安田文俊・山岸大輔・伊澤宏毅・児玉基一郎・尾谷 浩……………166

イネ培養細胞からのエリシター応答発光に対する過酸化水素の関与について

…………… 影山智津子・加藤公彦・稲垣栄洋・伊代住浩幸……………300

Fusarium dimerum Penzig var. *dimerum* によるアロエ株腐病（新称）…………… 本橋慶一・青木孝之・小林享夫……………304

病 害 短 信

Phytophthora nicotianae によるポインセチア疫病（新称）…………… 神頭武嗣・植松清次・相野公孝……………112

Rhizoctonia solani AG-4 HG-I によるトウガン褐色あざ病（新称）

…………… 川口 章・井上幸次・久保田真弓・百町満朗・那須英夫……………114

Pseudomonas cichorii によるエンダイブ腐敗病（新称）…………… 末永寛子・川口 章・佐々木静江・井上幸次・那須英夫……………172

Thielaviopsis basicola (Berk. & Broome) Ferraris によるゼラニウム黒根病（新称）…………… 西川盾士……………309

アイリスイエロースポットウイルス (IYSV) によるニラえそ条斑病（新称）の発生…………… 福田 充・中山喜一・本田要八郎……………311

講 演 要 旨

平成 18 年度地域部会講演要旨

九州部会 2006年10月31日～11月1日 熊本県…………… 29

関東部会	2006年9月14日～15日	厚木市	36
東北部会	2006年9月28日～29日	鶴岡市	45
関西部会	2006年10月28日～29日	京都市	53
北海道部会	2006年10月19日～20日	札幌市	74
平成19年度日本植物病理学会大会講演要旨				175
橋岡 良夫先生			1
土居 養二先生			85
本会記事			80, 117, 314
学会ニュース			第1, 2, 3, 4号
第73巻総目次			第4号
INDEX			第4号